

閉会挨拶



主題情報部長 岡村光章

主題情報部長の岡村でございます。

みなさま、長時間ありがとうございました。主題情報部という、非常にわかりにくい部の名前になっておりますけれど、英語名は **Reference and special collection department** です。全然日本語と英語が一致していないのですが、一般の方へのレファレンスの総括をする部の部長でございます。

私、2年間くらい関西館におりまして、実は、第3回目のフォーラム¹⁸でご挨拶をさせていただいています。その時は参加館が400館くらいだったのですが、今は500館くらいということで非常に驚いています。その頃は、今いらっしゃる企画協力員の先生方と、目標は10万件だと話していました。今日の開会挨拶では、館長の長尾から50万件という数字が出て、「ああ、目標が高くなっているな」と思いました。

関西館にいたときは、みなさまとの連携協力の中でレファレンスの事例登録数を増やしていました。東京本館の主題情報部は、100から200くらいしか毎年登録していない、けしからんと思っておりましたが、主題情報部長になっ

てしまいました。主題情報部長に赴任いたしまして、部の中の事情が色々わかりました。わざとそんなふうになっているわけではなくて、二つ原因がありました。

一つは業務フロー、システムの部分です。レファレンス受理処理システムというのがあって、そこからレファレンス事例を投入していたのですが、システム上の作業が非常にいろいろとあり、煩瑣な作業になっていました。

それから、考え方の部分ですね。quality か quantity か、量か質かという問題がございまして、正に、今日議論されていることを、部内でも議論しておりました。

まず、システムの方は、リサーチ・ナビが稼動したことはみなさんご存知かと思います。そのリサーチ・ナビの中にあるレファレンス事例集システムから、レファ協への投入を非常にやりやすくしました。

それから、考え方ですが、文書レファレンスを原則全て投入するという考え方を導入いたしました。私どもも受理段階で3,000件、処理段階で8,000件くらいのレファレンスを処理しております。その内の半分くらいは複写サービス申込のための掲載箇所の確認ですので、全部とは言いませんけれども、原則的に投入という形で増やしたいと思っております。

¹⁸ 第3回レファレンス協同データベース事業参加館フォーラム
[http://crd.ndl.go.jp/library/forum_3.html]
]

これはレファレンスだけのことでなく、Web上で行っているサービス全般のことですけれども、やはり信頼性の確保ということが大事なことでであると認識しています。

私どもも、外の方と色々と議論しまして、国立国会図書館の何が強みかといった時に出てくる意見は、信頼性なのです。信頼性、信用を確保するということが、私どもがこれから生き続ける道だというふうに思っております。ただ、これも非常に難しい話で、紙だけの時代は編集過程というところを経たものが印刷物になっておりますので、そこで一種の信頼性が確保されていたわけです。しかし、ネットというものは編集過程を経ておりませんので、非常に玉石混合です。

例えば、関西館でアジアリンクというものを維持しています。アジアの国々について1万くらいのリンクを貼っているのですが、この維持が大変で、リンクしていたURLが、いつの間にかポルノのサイトになってしまうことがあります。そこで、「国立国会図書館ではポルノのサイトにリンクしているのか？」という大問題になるわけです。ですから、信頼性の維持ということが今後のテーマになってくると思います。

今日、私、主題情報部長という立場で改めてお話しさせていただいているのは、私ども国立国会図書館は事例の登録館でもあるからです。次回必ずとは約束できませんけれども、やはり、私どもが日頃悩んでいることをみなさまと共有ができるよう、ご報告させていただきたい強く思いました。

この事業だけではなく、図書館界は本当に連携協力、コラボレーションがなければと思っておりますので、今後とも、協力の程よろしくお願ひしたいと思います。

本当に本日はお忙しいところ、長時間ありがとうございました。